



大清國商船田曾浦江漂流
 礫浦江曳入今津方板中 陸軍控

特別
 凡2
 3400



112
3400

安政二年卯正月終

大清國商船同方浦江漂流

孫浦慶合也流板中江紀律執

水及... 亦書... 亦書...

大清國客商船戶彭恒福于十月十七日在山東地界放洋被大風飄來

問你此山何國

水米柴

再度招出而

大清國江蘇通別客商船戶彭恒福去十月十七日在山東地界放洋被大風飄到此山不知什麼國圖今本水米柴一樣俱無

一... 彭恒福... 水米柴... 亦書... 亦書...

形破れしものも此の品に在るは人乳
動搖不改れ精を此の品に在るは
馬鹿海に在る中刻を此の品に在るは
此の品に在るは

他口此の品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは

又この品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは馬鹿海に在るは

此の品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは馬鹿海に在るは

他大馬鹿中令
此の品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは馬鹿海に在るは
此の品に在るは馬鹿海に在るは

又と母及子と西酒と何れもあつた物もなきこと大に
かたじけなくともつて煩くお招きしんことお母と父
夜御におんことおんこといじりうまお国とん
まの御とちせとち敷のちせう地方とち招きとち
か中かち候口候五折、いふこと父とちせとちあ
らとち敷の外とちせとちせとちあ人か煩く候と
お招きとす

他所の書札の如く一投書あり後方
何れもなきことお招きとちせとちあ
いふこと父とちせとちあ
なることお招きとちせとちあ
とちせとちあ
お招きとちせとちあ
はらじなきことお招きとちせとちあ
らとちせとちあ

尾
山同生元

一 陰山角新標

山標

山新標

山新標

山同生標

山新標

山新標

一 山新標

山標

山新標

山新標

山標

山同生標

山新標

山新標

山新標

一 山新標

山新標

一 山新標

山新標

此有去紅金漆流水平案國之...
高順陽...
刻自...
—

一 產...
有人...
...
夜中...
—

難...
日...
—

一 左...
...
...
...
—

他の由り此の如くは可成り大なる為りおぼしむ

中

一 以て口守庄梅岡に梅の種を植て下り梅の實を
梅岡中一に留め梅の枝口梅岡寺に梅
此の如くは可成り大なる為りおぼしむ

一 口守庄梅岡に梅の種を植て下り梅の實を
今迄に口守庄の梅の種を植て下り梅の實を
口守庄の梅の種を植て下り梅の實を
口守庄の梅の種を植て下り梅の實を

口守庄の梅の種を植て下り梅の實を
口守庄の梅の種を植て下り梅の實を

中

一 口守庄の梅の種を植て下り梅の實を
口守庄の梅の種を植て下り梅の實を
口守庄の梅の種を植て下り梅の實を
口守庄の梅の種を植て下り梅の實を

用之梅之類 (註) 意指者 一 本 筆 蹟

十條の別名

一 今只の田舎の梅樹、白梅人取在、近禪寺江

之梅、白梅、江中屋屋中

河内屋梅

津板屋梅

此梅主人

此梅主人

此梅主人

河内屋梅

津板屋梅

此梅主人

田舎地方の梅

岩屋

加茂屋梅

河内屋梅

久保屋梅

鬼ヶ梅之野梅

久野屋梅

此梅主人

加茂屋梅

此梅主人

久保屋梅

此梅主人

河内屋梅

此梅主人

為一平丁秋 安未主人

松梅子秋記

秋之平丁秋 安未主人

入秋主人

一 秋之秋平人月日各日各日及秋秋之入也秋

一 秋之秋平人月日各日各日及秋秋之入也秋

一 秋之秋平人月日各日各日及秋秋之入也秋

秋之秋平人月日各日各日及秋秋之入也秋

一 秋之秋平人月日各日各日及秋秋之入也秋

一 秋之秋平人月日各日各日及秋秋之入也秋

和書 初巻

神領 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

元中 〇〇

一 今 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

福 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

一 今 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
之 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

今 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

麻 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

一 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

一 十の段大凡五か半は先紙破入増す
与紙えり紙あり
一 紙の破れは紙の厚さにかまひなく
紙の厚さの異なる紙を今より紙の厚さの
ちいれ紙あり
一 十の段大凡五か半は先紙破入増す
紙の厚さの異なる紙を今より紙の厚さの
ちいれ紙あり

一 十の段大凡五か半は先紙破入増す
紙の厚さの異なる紙を今より紙の厚さの
ちいれ紙あり
一 十の段大凡五か半は先紙破入増す
紙の厚さの異なる紙を今より紙の厚さの
ちいれ紙あり
一 十の段大凡五か半は先紙破入増す
紙の厚さの異なる紙を今より紙の厚さの
ちいれ紙あり

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a vertical line on the left side, followed by several lines of text. The words are difficult to decipher due to the cursive style, but some recognizable words include "Kilmer" and "Kilmer".

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a vertical line on the left side, followed by several lines of text. The words are difficult to decipher due to the cursive style, but some recognizable words include "Kilmer" and "Kilmer".

光

一 鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

一 鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

鹿の鹿鹿鹿鹿

此門後亦如系大和割内(東)十八分
之上(多)由(多)也(多)在(多)内(多)正(多)年(多)一(多)方(多)一(多)
夜(多)之(多)也(多)和(多)一(多)傳(多)班(多)身(多)台(多)指(多)高(多)り(多)不(多)能(多)左(多)
無(多)一(多)能(多)出(多)凡(多)口(多)之(多)也(多)依(多)之(多)也(多)存(多)之(多)也(多)

二月廿九日
在(多)中(多)取
在(多)中(多)取
在(多)中(多)取
在(多)中(多)取

一 十月廿九日 獲(多)和(多)之(多)統(多)治(多)所(多)因(多)有(多)湯(多)素(多)淡(多)力(多)獲(多)
内(多)浦(多)之(多)入(多)公(多)和(多)字(多)也(多)早(多)取(多)之(多)也(多)其(多)行(多)得(多)也(多)
此(多)之(多)中(多)字(多)也(多)其(多)取(多)也(多)其(多)也(多)

一 十月廿九日 獲(多)和(多)之(多)統(多)治(多)所(多)因(多)有(多)湯(多)素(多)淡(多)力(多)獲(多)
安(多)維(多)島(多)角(多)之(多)福(多)也(多)其(多)取(多)也(多)其(多)也(多)

一 十月廿九日 獲(多)和(多)之(多)統(多)治(多)所(多)因(多)有(多)湯(多)素(多)淡(多)力(多)獲(多)
中(多)字(多)也(多)其(多)取(多)也(多)其(多)也(多)

大抵由是而見人多有...

一 寺の在りては所約と来りて信を以て中...

師者此に在りて又

是也

即此意なり...

一 浦の中西

寺

入

位...

右に在りて浦に在りて...

一 座は浦に在りて被用言ふ外復に...

七段の用言ふ...

山月十の中...

淨極一...

...

因丸...

浦に在りて...

一 書物...

本中...

十...

...

...

...

...

一 清江雜書
一 清江雜書
一 清江雜書
一 清江雜書
一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書
一 清江雜書

一 清江雜書

一 清江雜書

一 清江雜書

廿八日九領田曾浦の波津急に舟に沈
那津津浦の舟に急に沈み舟に沈
手組の舟に九領の漕船に送る
船に沈む舟に沈む舟に沈む舟に沈む
舟に沈む舟に沈む舟に沈む舟に沈む
舟に沈む舟に沈む舟に沈む舟に沈む
舟に沈む舟に沈む舟に沈む舟に沈む
舟に沈む舟に沈む舟に沈む舟に沈む

一 右方之船形諸浦之漕道に因りて是
 難航之所に見更に此或も亦其奇に船
 不足之弊も見る事ありて新公則之
 一 漕船亦ありて是を以て舟船形諸
 一 漕船亦ありて是を以て舟船形諸

一 而く浦に於て業同船形艘之善劣を争ね
 先立浦に業同船形艘之善劣を争ね

但し船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業
 同船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業
 同船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業
 同船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業

一 右業同船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業
 組正玉ありて船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業

一 船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業
 一 船形諸浦に於ては所由の如しと云ふに業

作出也之海^のと^り乃^も有^る船^の船^の係^り也

之^を別^り入^る念^は是^れ教^書人^の打^出也^の也^の也

一 舟^の船^の係^り又^も風^の之^を清^く船^の不^致也^の

最^も清^く船^の之^を出^す船^の系^の之^を固^く船^の不^致也^の

之^を舟^の船^の係^り及^ん舟^の船^の之^を通^す也^の

一 舟^の船^の係^り之^を時^に風^の波^の流^る最^も舟^の船^の係^り

之^を通^す也^の之^を船^の係^り之^を通^す也^の

出^す及^ん舟^の船^の係^り之^を通^す也^の

一 舟^の船^の係^り之^を船^の係^り之^を通^す也^の

之^を通^す也^の之^を舟^の船^の係^り之^を通^す也^の

之^を通^す也^の之^を舟^の船^の係^り之^を通^す也^の

一 舟^の船^の係^り之^を船^の係^り之^を通^す也^の

之^を通^す也^の之^を舟^の船^の係^り之^を通^す也^の

之^を通^す也^の之^を舟^の船^の係^り之^を通^す也^の

但看时乳尔之良去亦存林及人形安集
及之是是是是是是是是是是是是是是是是

一 舟船浦收系出之良浦用船之外

能之口见为船未出之日後之望之良浦溪船
操之通安子中操之致事

右之通安子中操之致事
舟之通安子中操之致事

但件之通之回凡船浦之舟士致培津浦

通浦之舟士致培津浦

一 舟船浦

右浦船書明達五所以舟培津浦

看山浦勘定在舟新古区连之致也

中村九郎三清平

舟船浦

田丸領孫傳方
海士郡塩津御邊

内
之
同
原
由

光

一人足

谷念孫

右之好方不若山出立川候前川紙

宿附之通勢州田丸領田為所如

孫越以系宿一人足之清之孫立

志

紀州

評定所 角中

卯正月

後家之勢州田丸領田為所如
宿之傳之孫

同原由

一 洋酒後方有紅酒之分今上之 wine 皆 wine
只此也 只此也 只此也 只此也 只此也 只此也
只此也 只此也 只此也 只此也 只此也 只此也

品用
酒約

田庄何有酒 洋酒之分今上之 wine 皆 wine
只此也 只此也 只此也 只此也 只此也 只此也
只此也 只此也 只此也 只此也 只此也 只此也

品用
酒約

品用
酒約

一 十九方酒之紅酒之分今上之 wine 皆 wine
只此也 只此也 只此也 只此也 只此也 只此也
只此也 只此也 只此也 只此也 只此也 只此也

品用
酒約

品用
酒約

己巳 申
申 申
申 申

己巳 申
申 申
申 申

己巳 申
申 申
申 申

己巳 申
申 申
申 申

申 申
申 申
申 申

復
申 申
申 申

右 申 申 申

申 申 申

申 申 申

右 申 申 申 申
又 申 申 申 申
一 申 申 申 申
申 申 申 申
申 申 申 申
申 申 申 申

申 申 申 申
申 申 申 申
申 申 申 申
申 申 申 申
申 申 申 申
申 申 申 申

先

一 他年 白雲

一 多事 終了

一 丁未 終了

一 丙午 終了

一 白年 終了

一 燕 終了

一 丙午 終了

一 丙午

一 丙午 終了

一 今方 終了

一 是今 終了

一 財社 終了

一 加中 終了

一 一 終了

一 浦 終了

一 一 終了

漂民應接

上

安政二年乙卯正月清國使節氏上
弟伊豆丸也

彼問

問你此山河國

我答

大日本國伊勢度會郡田曾浦

彼

此一節彼書 大清國江蘇通州客商船戶彭恒福去年
所呈

十一月十七日在山東地界放洋彼大風到此
山今本船水米柴一樣俱無 按彼被之誤

彼

明天水米柴一樣俱無早早送來

我

我審你船水米柴俱無困甚即今所與如左

一水 四十桶

一精米 二石

一柴 百五十束

彼

我船到你國費你諸位之心現今水柴米已收不

我

一併乘船号人名詳記呈未

彼

江蘇通川三甲二十一号客商船戶彭恒福

人名

舵工

彭錦初

年五十一岁
七故

顧漢臣 年二十一岁

陳錦玉 年廿三岁

陸華堂 年四十一岁

陳双春 年廿四岁

徐承恩 年廿六岁

顧富乾 年三十一岁

徐扣 年廿七岁

彭儉扣 年廿七岁

杜楊松 年卅五岁

陸彭春 年廿八岁

姚洪如 年四十二岁

顧狀三 年五十一岁

彭小山 年廿八岁

顧姚群 年廿二岁

顧漢朝 年廿七岁

徐有山 年又十七岁

彭何子 年廿二岁

沈有才 年廿九岁

王扣子 年卅三岁

我

我已審你唐山江種通列客商船戶彭恒福客歲
十一月十七日在山東地界放洋被大風飄去
以後幾日遇大風乎

彼

今于五月廿四日被大風飄至十二月初二日又
復遇大風初四日又被風直到初十日風盡
又望見此山本船有無大樁實在難得近
山所為西風已長無奈柴水一樣俱無
奔到泊船之地到新晉月初一日亭泊今費地
方官人報國主費官人好心送到
我船柴水亦一概收訖

下十二字雜讀
有誤

我

通列去山東幾里

彼約數二千餘里

我

汝等非崇奉耶穌教者乎

彼

難解不能答

我

天上聖母之外更有何敬乎

彼

吾能敬天上聖母等人家第一敬天地父好

我

如有所望願須告之報官而後使得所請

彼

缺火

解火寸ナリ

火紙

信香

日線香ナリ

市煙

同蠟燭

菜油

吃菜

猪

雞

魚

火酒

此物如有可分

此等物敬

天上聖母

如無不可費心

彼

恐西南風發大此處難久亭泊

我

即日遣小舩數艘牽入於裏海風波穩處亭
泊身安心

彼

照此字多謝 官人

彼

我問 官人本船可能護送銅局

我

銅局何地方

彼

長旗地方有我大清國人在局

按旗崎同音
即長崎也

我

將請 官護送至長崎你等安心暫亭泊
此處以俟 官命之下

彼

吾費 官好心

我

你商船去年十月十七日發山東地界之時
裝何等貨物欲至何地方詳講其終始

彼

裝糟米運至順天府交卸後未到山東
裝客豆回吾本處不想被大風飄來

十五夜筆談

我燈燃浮水者何故

彼今日吾國人豕放河燈而消災也

十七日

我諭

官命既下送我船于紀伊國海士郡塩津
浦近日間行使我小舟二寸隻擇去如轉
送到長崎則少待

大命之下於塩津浦你等勿勞煩想

乙卯正月十七日

彼敬多謝勞

上官人之心早送吾船到長崎

謝之謝之

咸豐五年正月十七日 顧漢臣頓首再拜

我昨告要釘裝木物領意到塩津浦請

官府處置你等莫勞心

彼多謝之知了

亦月 今天風浪比昨日稍穩可開船

彼答

代弄天明看子可也乎

又天明不下雨可能放船乎

巨細書

一 船丈凡十六間斗り幅凡二間斗り

一 船中殘存物大座王豆 油槽サあり

一 船中破損所大檣根えり三間斗り上り

折し仮檣細キ木立り船た表上り方七尺八

斗り破り船底塗道あり

但船中ありく塗返捨ん

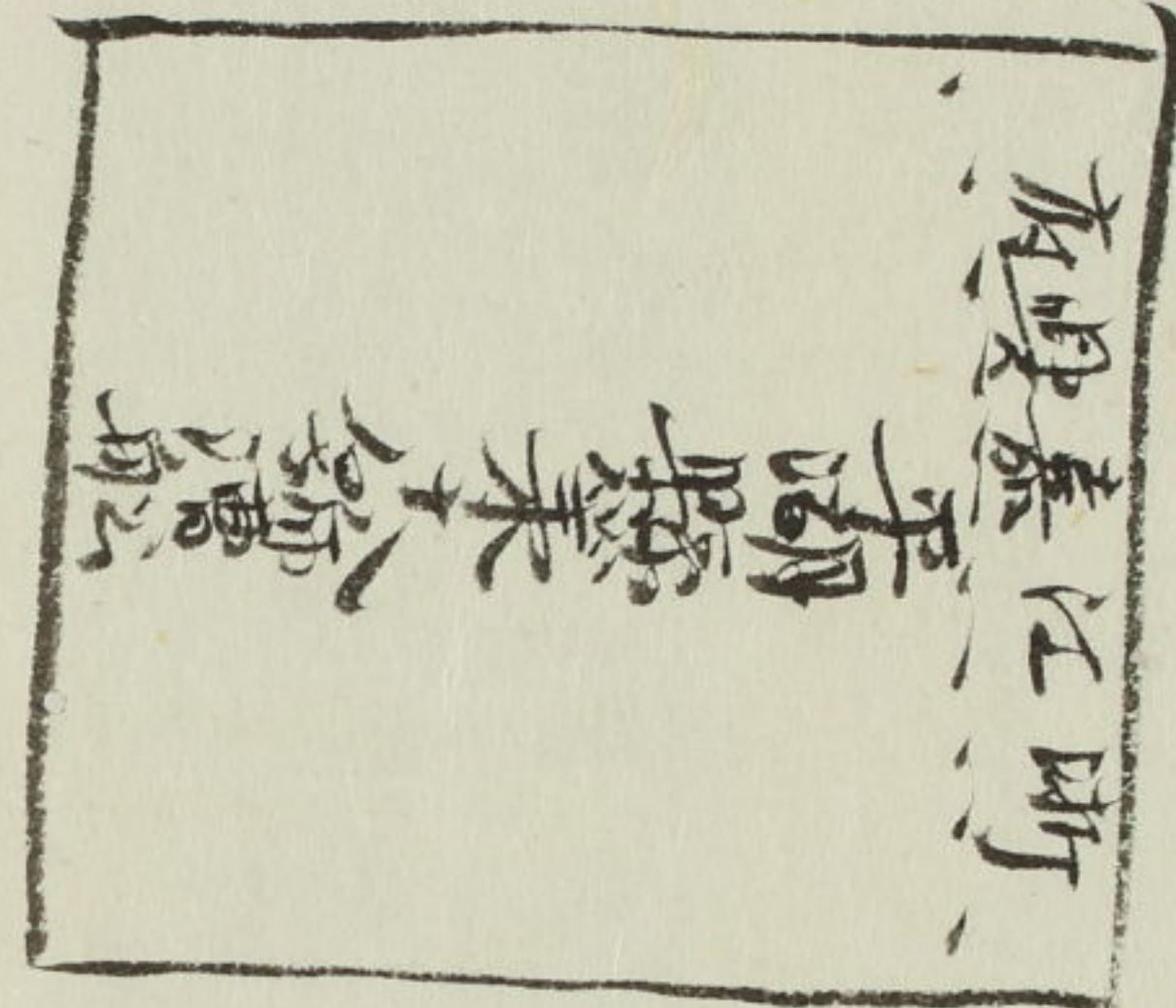
一 犬一疋飼り日本人工吠付き其形日本ノ犬ノ類同し

耳ハ瘻レ 但日本ニテ矮物ノ如ク弄ラ

一 小鳥一羽籠中ニ飼アリ 名ノ字ル處北麟鳥ト云
但餌ハ粟ナリ

一 鶏一羽飼アリ 日本ノ鶏ト同シ

一 船印



色柿色
長凡九人斗リ
幅凡五人斗リ
地カナキレ凡二幅

一 衣服都テ木綿解裏羊毛裾僧衣ノ如シ或ハ

服別解ノモノモ着ス何レモ香ヲハキアリヒフ
羽織ノエトキモノモ着ス

一 頭髮前通リ剃アリ 後口長ク之ヲ組ニイタタク

名アリテ卷キ糸ニテクリタルアリ 各謂フノ戴ク
首ニ毛ヲ卷キアル者モアリ

一 白キ綿ノカラフラ魯ノゴトキ物アリ 粉子ト云ハ今料見

一 水主ノ内入長崎ニ来ル者アリ 粗日本語ヲ云

一錢

道光通宝
乾隆通宝
嘉慶通宝
咸豐通宝

有

大當五十

中當十 小錢

小當五

胡琴アリ 表蛇皮ニテ成ル

船中銘木ニテ作りタル大丸ニツ鉄ニテ成ル

小キニツアリ

但鐵繩 椽 柁繩アリ

船中エエカリ 越ハ茶ヲ吞ス日本ノ茶ガ下シ

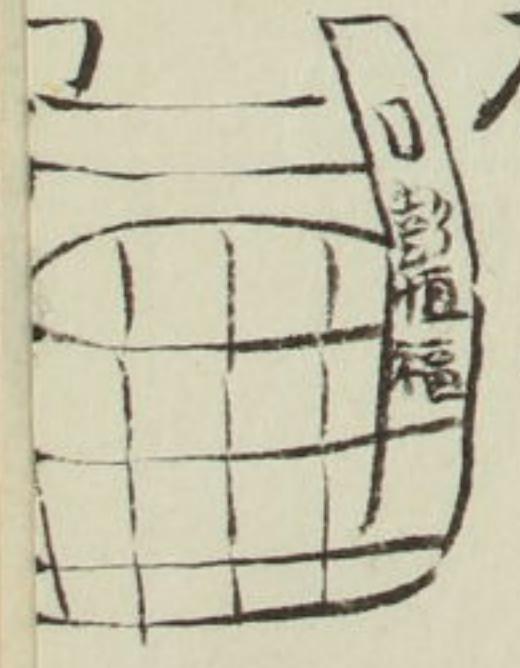
船中戸棚ノ如キモノアリ 其中エ這入寝ル

船中腰アケアリ

船中羊毛又ハ狗毛ツトシ 糸衣類多クアリ

大老王豆十豆南蠻茶交リ 桶ニアリ

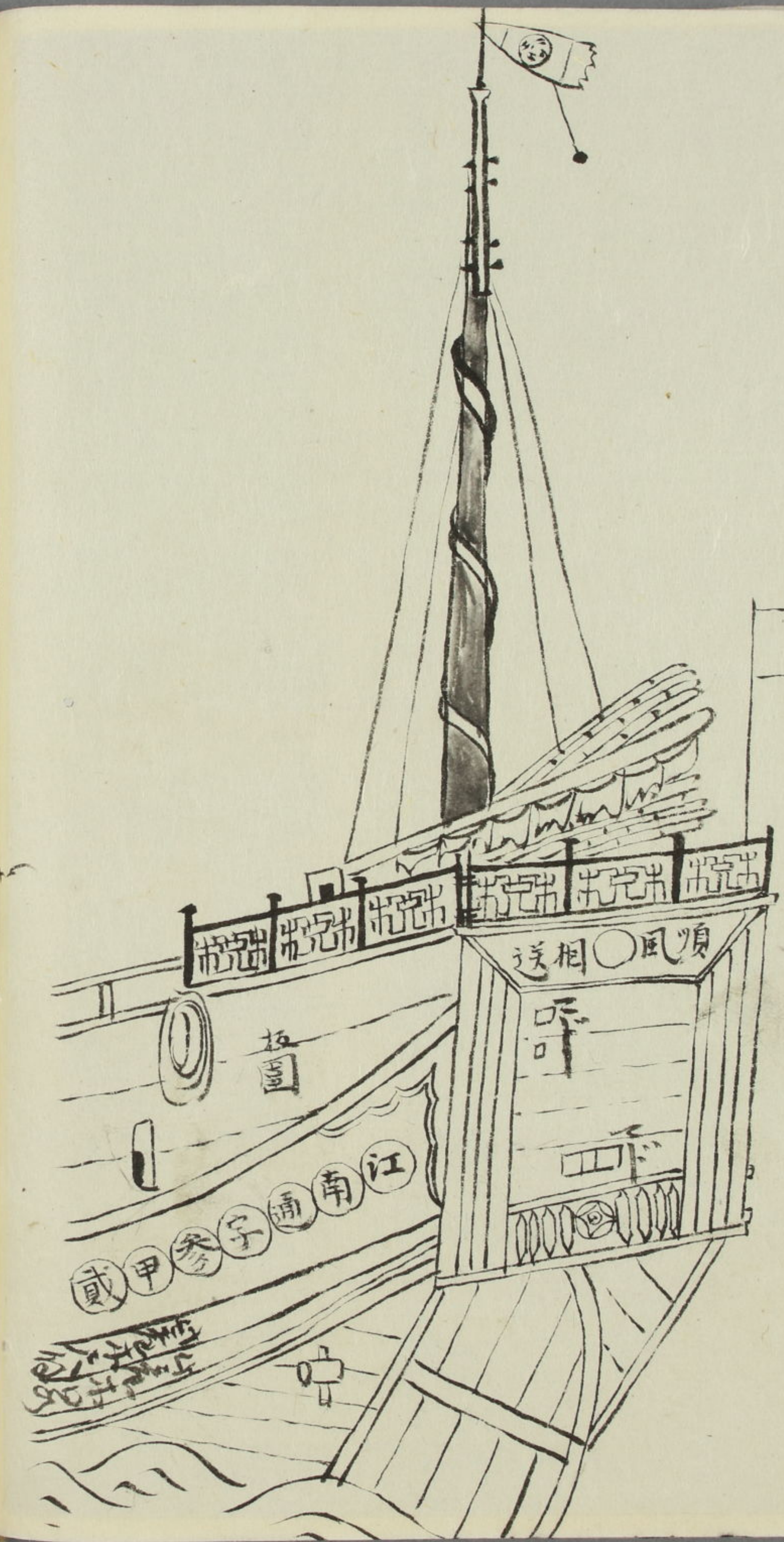
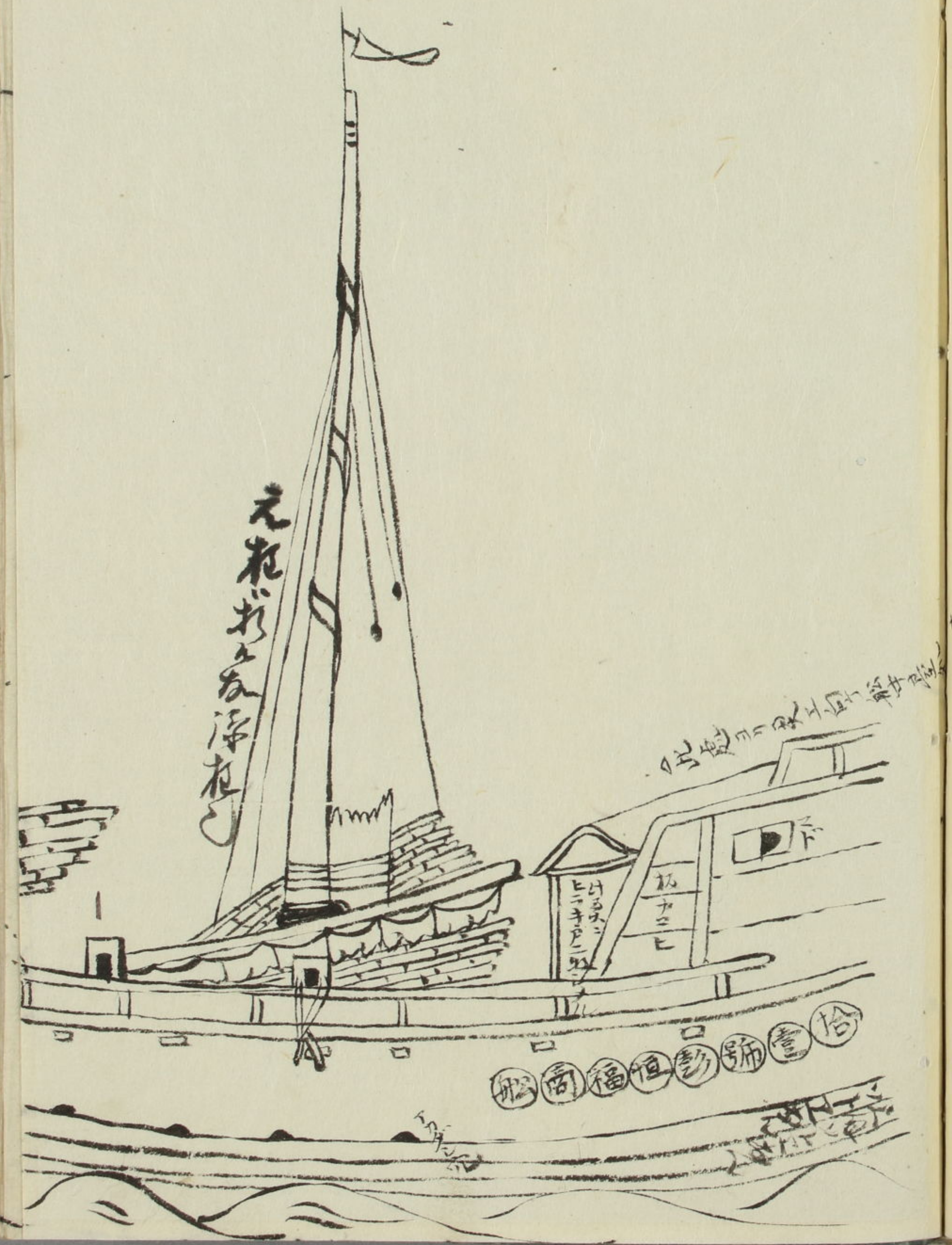
桶ノ形



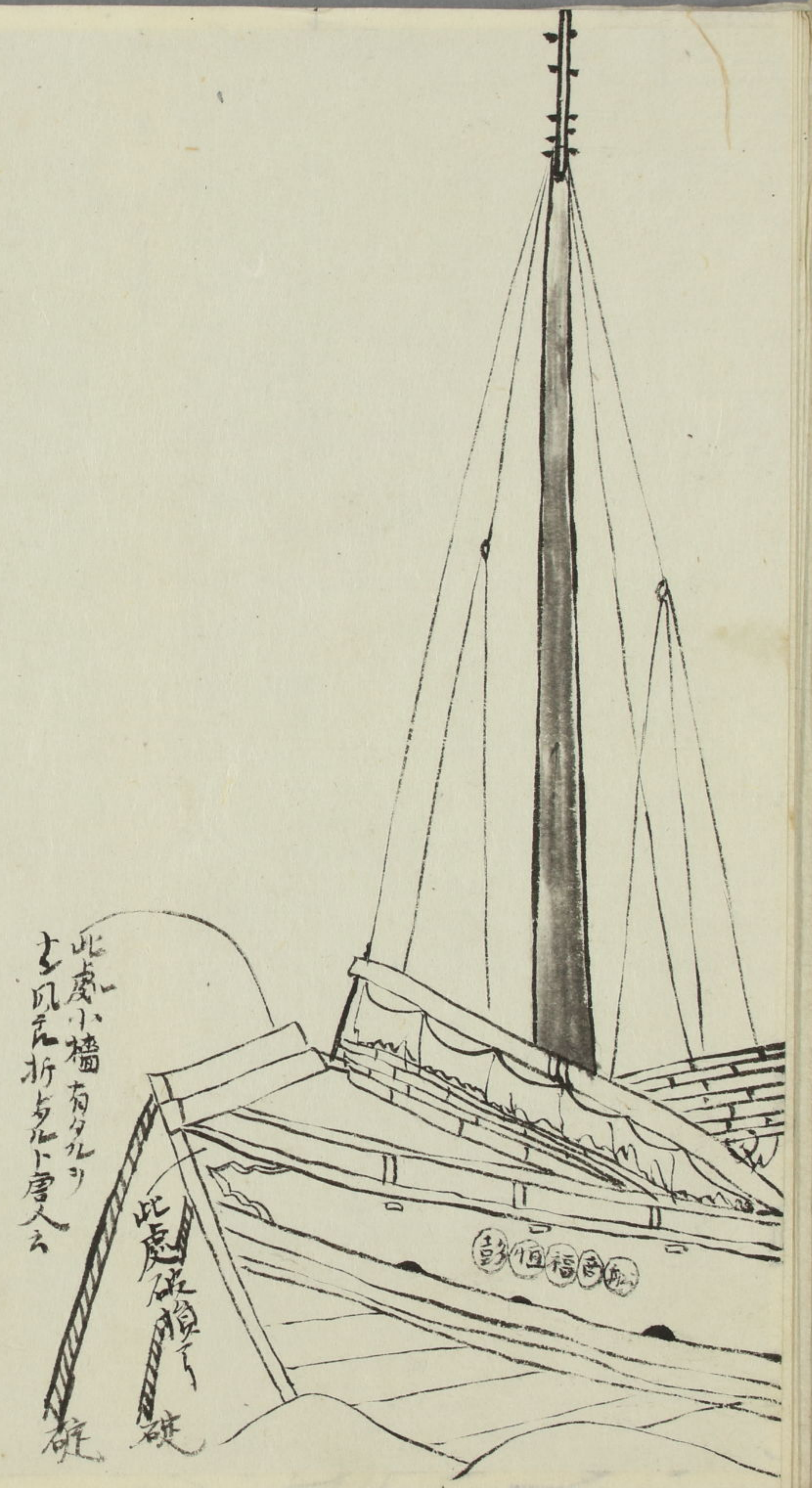
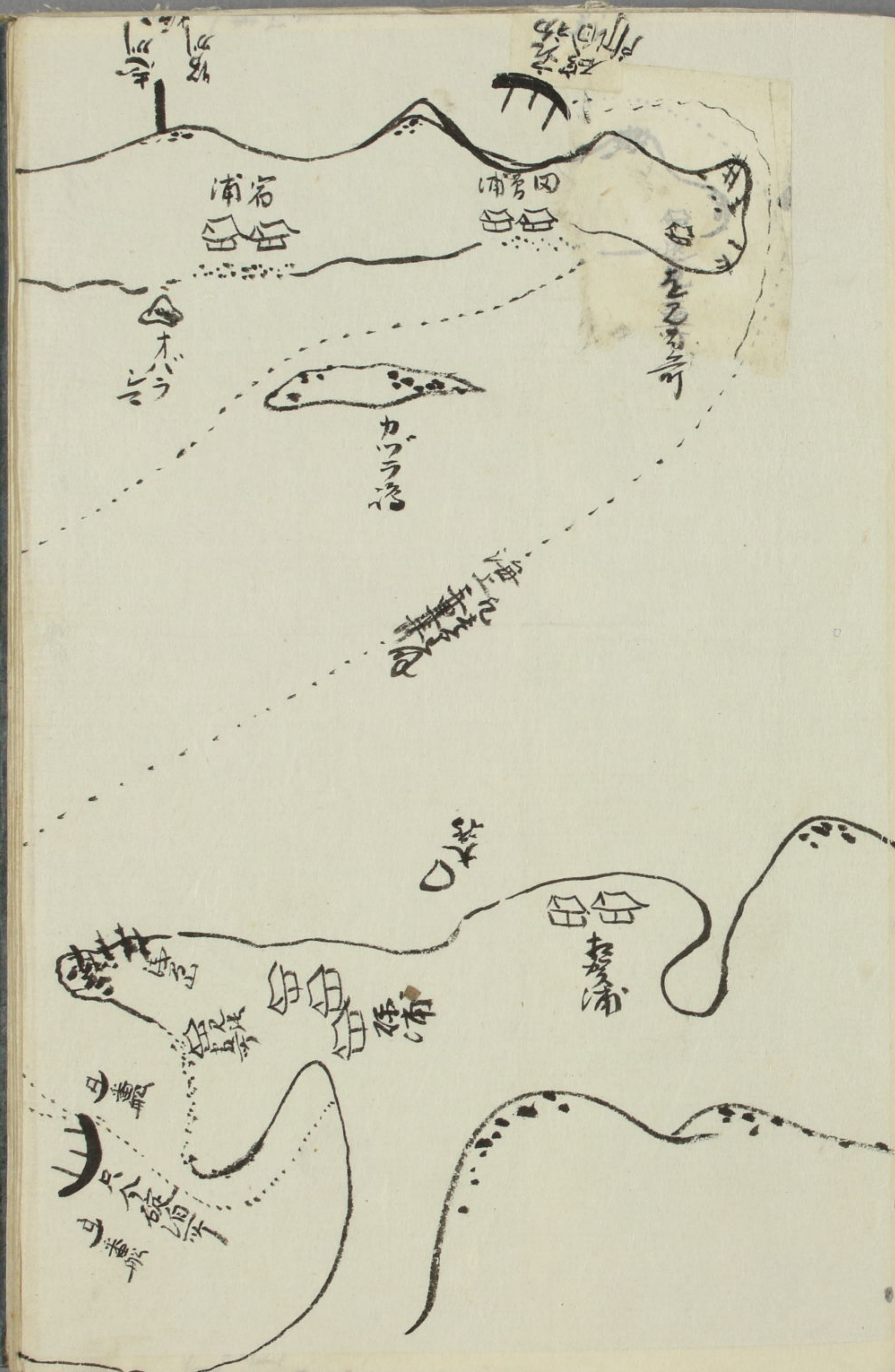
一 船中大鼓系トラリ何良用ニ尚ハ神拜
 ノ節用ニトク
 一 船工死シテ戸棚ノ内ニ右口シ錠オロシ
 一 船中却テ馬臭及シ

右之通

本文塗道イサカノ事ニ
 塗留イタス筈ナリ



此所工船印之建儿



心是

大清江蘇通判高和彭恆後人宋楷未仕移入蓮漕之
 須天府之文部一後山東之安之之移入申心路阮
 之之五年十月十日山東之地母之移洋一十月十日大凡
 色之十二月十日下波凡之色元楷根之不折也水軍亦
 保國之之之之月日之四言海者清日深思移移入島林
 水之之在之之法水之之亦東亦之之之也一之之也
 一 移以之也 願漢後下之亦之也 之之之應攝之 萬年之改
 一 移以之也 善昌中一之也 亦中一之也 王臣 德勝ナリ

耳所のぬきあきしたるはとそりしるる葉のモリ
あり

一 新中候の并のぬきあきしるる平日多き少きの
滋又白粥とて食ふ候のよしとて思ふよしとて思ふ
みぬきしるる思ふよしとて思ふよしとて思ふハ
ナクも食ふ候のよしとて思ふよしとて思ふハ
入る候しハし行ハシ

一 大粒ありし二ツもアリト云ふも又地味に
中粒ありし一子づかぬモノモあり

一 船の改修ししにたるえ所移ありし船に中
あきあきとありし

一 物切のあきしるるのぬきあきしるる中候の
あきあきとありし又改修ししにありし
しあり

一 ソロハレあり候き下り候き物切あきしるる中候の
上ノ粒ありし行のよのぬきあきしるる中候の
あきあきとありし又改修ししにありし

一 粉子トヤ一モノ毛竹ニテアラム大申十九向十九第ニ
 此山入者一んをいひし折の如きものなり 則ち之を御前より
 一 本を折し到一んをいひし折の如きものなり 亦久秀也等
 一 羊毛ノ毛江臥ノ毛ト有る社中御前より之ニ
 小町ノ毛ヲムタウラニ上ニ六ヶ子ノ毛又毛
 一 御毛ニテヒツノ毛ト有る社中御前より
 一 社中ノ内御前ノ御毛ト有る社中御前より
 一 毛ノアリ
 一 申方ナル有アリテ有る人物多ク記ありテ此所ナリ
 尺経ノ彩色有る者一尺経ノ
 一 申方ノ毛社中ノ外五ヶ子ノ毛ト有る社中御前より

安政二乙卯正月

大清國客商船筆談書寫



卯二月廿七日

五十年

北地地

年

由之通... 海之... 凡... 始... 終...
九... 年... 海... 了... 心

大清國客高船戶彭恒福

于十一月十七日在山東地界

放洋彼大風飄來

水米柴

問你此山何國

一七... 田... 浦... 嶺... 嶺... 八... 丁... 沖... 淺... 險... 以... 三... 紅...
書... 牙... 括... 出... 熱... 言... 之... 清... 氣... 文... 高... 和... 遠... 難... 凡... 海... 流... 環...
紙... 船... 被... 攔... 截... 者... 亦... 有... 之... 先... 之... 乃... 必... 有... 其... 理... 也... 如... 之...
孫... 十... 初... 乃... 浦... 村... 亦... 有... 人... 劫... 掠... 以... 致... 傷... 亡... 甚... 多... 幸... 而... 免... 難...
幸... 之... 幸... 之... 幸... 之... 幸... 之... 幸... 之... 幸... 之... 幸... 之... 幸... 之... 幸... 之...
總... 為... 抄... 送...
白... 升... 年... 中... 年...

一

田字補... 七... 沖... 山... 山... 山...

印... 印...

古... 古...

之... 之...

中... 中... 中... 中... 中...

一

今... 今... 今... 今... 今...

沖... 沖... 沖... 沖... 沖...

十... 十...

田... 田...

白... 白...

柳... 柳...

五... 五...

本...

升... 升... 升... 升... 升...

山... 山... 山... 山... 山...

方之乃其葉國意之也... 意之也

白井官

河口市之北橋

是年也... 船運... 國之... 白井官

白井官

井州信傳

白井官

相之也... 意之也

世程也... 途雖... 浦... 意之也

白井官

白井官

中絶下官地

異國より日本道法

りそんハるる
かちちやふひる
ひらすす一ふさる
りるとり一ふさる
ひんた一ふさる
むるも一ふさる

りそんハるる
かちちやふひる
ひらすす一ふさる
りるとり一ふさる
ひんた一ふさる
むるも一ふさる

琉球 朝鮮

大清國客高船筆談書寫

左記ス

安政二年乙卯正月清國難民等

筆談左記ス

彼問

問你此山何国

我答

大日本國伊勢度會郡田曾浦

彼

大清國江蘇通州客高船戶彭恒福去年

十月十七日在山東地界放洋彼大風到此山
今本船水米柴一樣俱無按彼被之語

彼

明天水米柴一樣俱無早早送來

我

我審你船水米柴俱無固甚即今所與如左

一水

四十桶

一精米

二石

一柴

百五十束

彼

我船到你國費你諸位之心現今水米柴已收

我

所棄船号人名詳記呈來

彼

江蘇通州三甲二十号客商船戶彭恒福

舵工

彭錦初年廿一歲
亡故

顧漢臣年二十七

陳錦玉年二十三

陸華堂年二十一

陳双春年十四

徐承恩年十八

顧富乾年二十一

徐扣年十七

彭儉扣年十七

杜楊松年十五

陸彭春年十五

姚洪如年二十三

顧狀年二十三

彭小山年二十三

顧姚春年二十三

顧漢朝年卅七歲

徐有山日年七歲

彭何子日廿三歲

沈有方日卅九歲

王扣子日卅三歲

我

我已審你唐山江樓通州客商船戶彭恒福客歲
十一月十七日在山東地界放洋被大風飄來以後

幾日遇大風乎

彼

今于十月十四日被大風飄至十二月初二日又復遇
大風初四日又被風直到初十日風盡又望見此山
本船有無大樁實員在難得近山所為西風已長
無奈柴米水一樣俱無奔到泊船之地到正月
初日亭泊今費地方 官人報國主費 官人
好心送到我船柴米水一概收訖

我

通州去山東幾里

彼 約數二千餘里

我 汝等非宗奉耶蘇教者乎

彼 難解不能答

我 天上聖母之外更有所敬者乎

我 彼 吾船敬天上聖母第一家第一敬天地父母
如有所望願須告之報 官而後使得所請

彼 缺少

火紙 解符符符

信香 線香符

市煙 蠟燭符

菜油

吃菜

猪

雞

魚

火酒 燒酎ナリ

此者如キ有ル可シ分ク

此等物敬ス

天上聖母

如シ無ク不レ可シ費ス心ヲ

彼

恐シ西南風發大此處難ク久ク亭泊

我

即日遣シ小船數艘率テ入リ於テ東海風波穩處亭泊焉

安心ト

彼

照シ此字多謝ス 官人

彼

我問 官人本船可能護送銅局

我

銅局何地方

彼

長旗地方者我大清國人在局

按旗崎同音
即長崎也

我

將請 官護送至長崎你等安心暫ク亭泊此處以テ

俟テ 官命之下ル

彼
吾費_ス 官好心_ヲ

我

你高船去年十月十七日發山東北界之時裝何等
貨物欲至何地方詳語其終始

彼

裝精米運至瀕大府交卸後來到山東裝
客豆回吾本處不想被大風飄來

我

我
燃燈浮水者何故

彼

今日吾國人家放河燈而消災也

正月十七日筆談

我
諭

官命既下送致你船千紀伊國海士郡鹽津浦近日
開行使我小舟二十隻梓去如轉送到長崎則
少待 大命之下於鹽津浦你等勿勞煩想心

乙卯正月十七日

彼

敬多謝勞

上官人之心早々送吾船

到長崎

謝之謝之

咸豐五年正月十七日

顧漢臣頓首再拜

我

昨告要釘數金等物領意到鹽津浦請官府
處置你等莫勞心

彼

多謝多謝知了

船中巨細書

一 船丈凡十六間斗り幅凡三間斗り

一 船中殘荷物五斗并油糟少シアリ

一 船中破損所大檣根元ヨリ三間斗りヨリ折レ仗檣

細キ木立テアリ船左表上方七八尺ガリ破レアリ船底

汚道アリ

但船中ラリク汚汲捨ル

下ケ
席

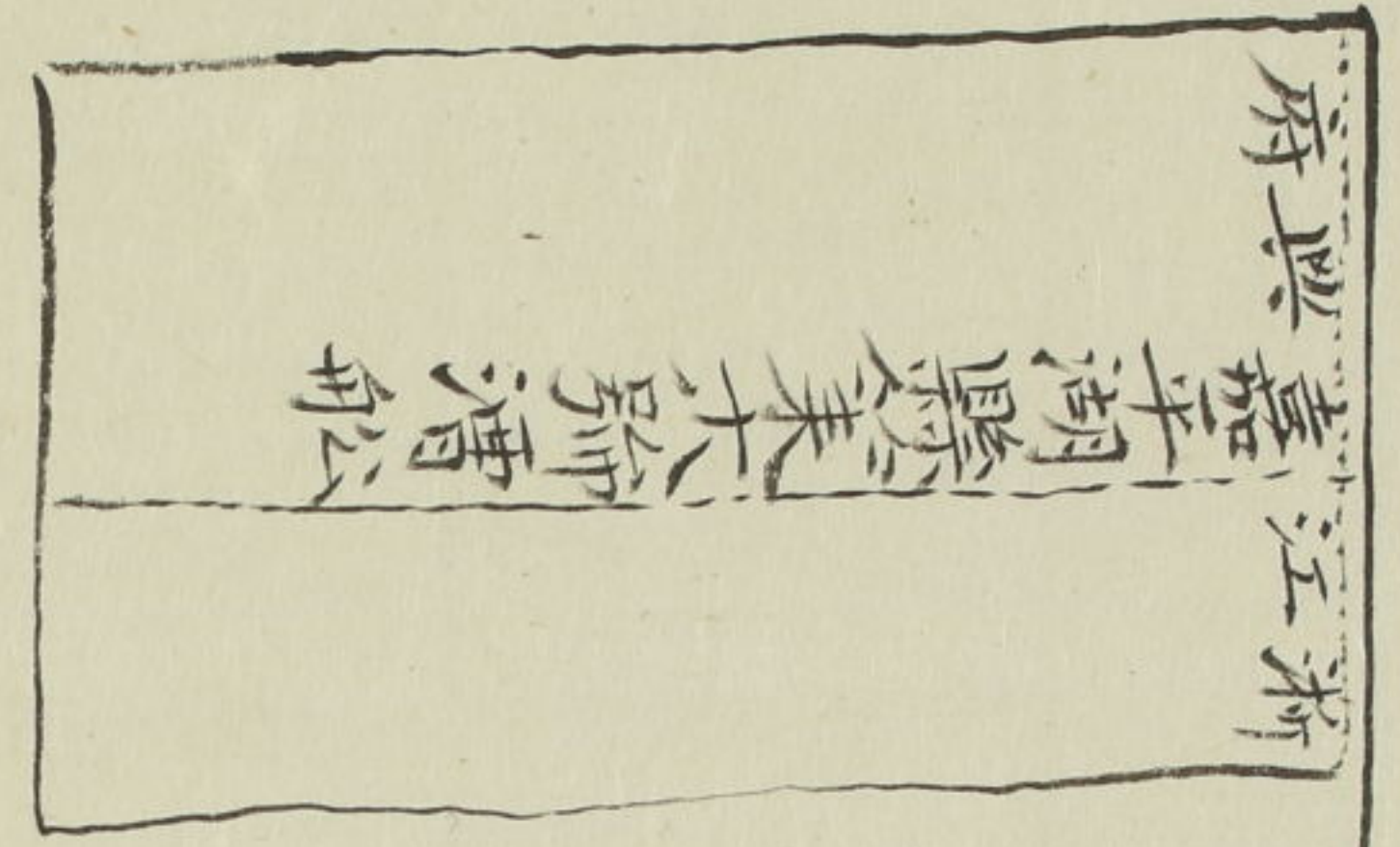
一 犬一足飼アリ日本人五吠付キ其形日本犬ト粗同シ

但日本ニテ矮狗トモトモ弄ラ

一 小鳥一羽籠中ニ飼アリ名ヲ尋ルニ北麟鳥ト云
但ニ餌ハ粟ナリ

一 鶏一羽飼アリ日本ノ鶏ト同シ

一 船印



色柿色ナリ
長凡九尺斗リ
幅凡五尺斗リ
地カキニ軟ニ幅

衣服都テ木綿躰裏羊毛裾僧衣トシ或ハ股引躰毛毛
着ス何レモ沓ヲキアリヒラ羽織トトキモノモ着ス

頭髮前通リ剃アリ後口長クニ組ニイタシタルアリ卷付
絲ニテクシリタルアリ各帽ヲ戴ク首ニ毛ヲ卷キアル者モアリ
白キ鯨ノカブラ骨トトキ物アリ粉トト云食料ト見ユ
水主内ノ人長崎ニ来ル者アリ粗日本語ヲ云

錢 道光通宝 乾隆通宝 嘉慶通宝

咸豐通宝 有 大當五十 中當十

小當五 小錢

胡琴コキウアリ表蛇皮ヘビニテ張ル

船中 錨木イカリニテ作りタル大ナルニツ 鉄テニテ作タル小キニツ
アリ 但レ錨繩イカリ梭シロ招繩ヒキナリ

船中 五イマヤリ 越ハ茶ヲ吞ス日本ノ茶ノ如シ

船中 戸棚ドトキモノアリ 其中ニ這ハ入リ寝ル

船中 腰カケアリ

船中 羊毛ウ又ハ狗毛イヌフトシ并ニ衣類モノ多クアリ

大束オホ王豆オウ 小豆コ 南蠻ナン 黍アヲ交ハリ桶ヲアリ

桶ノカタチ



船中 大鼓オホ并ニドラヲアリ 何節ナニ用ヒルト問ハバ神拜カミ節ノ用ヒ

船中 都トテ忠チウ臭ク甚シ

右ミノ通

紙シ 本文ホン洋道ヨウ子シサカノ
丁チウ立リ洋留ヨウイイタケ

大清國客商船戶彭恒福于
十一月十七日在山東地界放
洋彼大風飄來

水米柴

問你此山河國



[Faint handwritten notes in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

